

令和6年度

分掌・学年・教科の  
成果と課題



秋田県立六郷高等学校

## 目次

### ○各分掌

1	総務部	・・・・・・・・	P. 1
2	生徒指導部	・・・・・・・・	P. 2
3	教務部	・・・・・・・・	P. 3
4	特別活動部	・・・・・・・・	P. 4
5	進路指導部	・・・・・・・・	P. 5
6	保健安全部	・・・・・・・・	P. 6
7	研修部	・・・・・・・・	P. 7
8	教育情報部	・・・・・・・・	P. 8

### ○各学年

1	1年	部	・・・・・・・・	P. 9
2	2年	部	・・・・・・・・	P. 10
3	3年	部	・・・・・・・・	P. 11

### ○各教科

1	国語科	・・・・・・・・	P. 12
2	地歴公民科	・・・・・・・・	P. 13
3	数学科	・・・・・・・・	P. 14
4	理科	・・・・・・・・	P. 15
5	保健体育科	・・・・・・・・	P. 16
6	芸術科	・・・・・・・・	P. 17
7	英語科	・・・・・・・・	P. 18
8	家庭科	・・・・・・・・	P. 19
9	情報科	・・・・・・・・	P. 20
10	商業科	・・・・・・・・	P. 21
11	福祉科	・・・・・・・・	P. 22



令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 生徒指導部

## 1 本年度の重点目標

- |  |
|--|
| (1) 基本的生活習慣の確立<br>(2) 事故及び問題行動の未然防止<br>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成 |
|--|

## 2 目標達成のための具体的方策

- |  |
|--|
| (1) 基本的生活習慣の確立<br>① 挨拶の励行<br>② 端正な整容の維持<br>③ 「ベル即授業」の実践<br>(2) 事故及び問題行動の未然防止<br>① 校内外における問題傾向生徒の早期発見・早期指導<br>② 保護者及び地域諸機関との連絡強化<br>③ 問題を抱える生徒の個別指導の徹底<br>(3) 規範意識の高揚と豊かな心の育成<br>① マナー向上とルールを守らせる指導<br>② 職員の共通理解による指導の徹底<br>③ 研修の充実 |
|--|

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の登校指導を見直し、教員の多忙化防止に向けた取組ができた。</li> <li>遅刻防止の指導を学校全体で行ったことにより、遅刻者の減少と基本的生活習慣の見直しに繋げることができた。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速な対応や全校集会等、未然防止に向けた取組が行われた。</li> <li>支援委員会との連携も含め、生徒情報の共有や個別指導ができた。</li> </ul>	A
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全や薬物乱用防止、情報モラル等さまざまな講習会を企画・実施することができてはいるが、SNSに関するトラブルが多く見られ、生徒に如何にして浸透させることができるか検討していく必要がある。</li> <li>教職員間の共通理解は概ね図られているが、意識の低い一部生徒への指導の在り方について手立てなど再確認が必要である。</li> </ul>	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- |  |
|--|
| ・行事として行っている講習会を含め、マナーや常識・規則などの規範意識を高めさせるために、如何にして生徒に響かせるのか方法を模索する。 |
|--|

## 5 その他、要望等

特になし
------

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 教務部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 本校に即した教育課程を設定する。  
 (2) 校務支援システムを利用し、確実な成績処理を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 普通科コースの再検討と本校ならではの教育課程を検討する。  
 (2) 校務支援システムを運用することを前提にした内規に改定する。教育情報部と連携し、校務支援システムを運用する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 令和7年度入学生から普通科の定員減に合わせて現行のビジネスコース、教養コース一般、教養コース家庭を商業科目と普通科目の選択とすることでコースを廃止することにした。教育課程の検討も進んでいる。	B
(2) 内規の改定は順次行うことができた。さらに進めていきたい。校務支援システムの運用については教育情報部との連携により、運用できた。さらに校務支援システムを活用できるように研究していきたい。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・通知票をすぐ一から送信することを本校で行うかは慎重に検討していく。
- ・考査問題用紙の印刷ミスをなくする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 特別活動 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 生徒会執行部を中心に学校行事の主体的な運営を支援する。  
 (2) 部活動の加入を促進し、活動環境を整え、活性化を図る。  
 (3) 各委員会の自主的な活動を積極的に行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①生徒会執行部を中心に朝の挨拶運動や校内での挨拶を励行する。  
 ②生徒会執行部の発行する「SCHOOL NOW」を通じて、日常生活や学校行事などを各自が振り返る機会とする。  
 ③校外で行われる交流事業・各種会合への積極的な参加を促す。  
 (2) ①1年生への部活動紹介や体験入部など、既存の活動をより精度を高めて実践し、加入促進に繋げる。  
 (3) ①文化的行事・体育的行事とも各委員会を中心に計画・実践し、生徒が活動を通して達成感を味わえるよう配慮する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
「SCHOOL NOW」は、予定通り学校行事が行われ、予定通りに発行することができた。CSにおいて地域の方々と交流することが出来た。また、全県総体の開会式に生徒会執行部が参加した。	A
昨年並の入学者数であったが、部活動加入率は50%を切るという少なさで、特に女子生徒の運動部への加入がなかった。そのため目標達成はならなかった。卓球、自転車、陸上競技部への入部者が0で、今後は心配である。	B
今年の学校祭はコロナ発生以来の一般公開を二部制で開催した。今年は、壁面に変わり、新たに黒板アートに挑戦。どのクラスも良い出来栄であった。また、ステージ発表やクラスデコなど各クラスとも持ち味を発揮できた内容で、たくさんの来場者を迎えることができた。しかし、食品販売でお客さんを待たせてしまったところもあったので、来年度の課題となった。クラスマッチは、大きな怪我やトラブルがなく、終えることができて良かった。また、運動会では新種目の玉入れなど、大いに盛り上がり終ることが出来た。また、各行事とも生徒会を中心に、委員会や部活動の部員達が計画・実践し、行事の運営に協力してもらえてありがたかったし、感謝したい。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

学校行事もクラス数や生徒数減少に伴い、創意工夫していかなければいけない。また部活動加入率も上げていきたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 進路指導部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 学ぶこと・働くことの意義の理解と、正しい職業観・人生観の育成に努める。  
 (2) 生徒の多様な進路希望を実現させる体制を作り、適切な資料や情報を提供する。  
 (3) 保護者や地域とも連携し、個々に対応したきめ細かな進路指導を行う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ①進路ガイダンス、進路講話、合格体験発表等の実施。  
 ②職場見学、インターンシップ、社会人講話、キャリアパスポート等の実施。  
 (2) ①面接、調査等による個々の進路希望の把握。  
 ②進路情報（就職・進学）の早期提示と「進路の手引き」の活用。  
 ③面接指導、模擬試験、補習、添削等の計画的実施。  
 (3) ①三者面談、地域の人材等の活用。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
・各学年の発達段階に合わせ、職場見学、インターンシップ、卒業生講話、合格体験発表会等の各取組を行った。また、「進路漫才」や「仕事とコミュニケーションセミナー」等の新しい企画も実施できた。	A
・進路希望調査や面接で進路希望を把握し、今年度も全職員の協力で面接指導や作文指導等を行った。 ・早期に進路が内定した生徒が多かったものの難航した生徒や進路変更する生徒等もあり例年より進路決定まで時間がかかった。	B
・各学年とも三者面談等で家庭と綿密に連携をとりながら進路指導を行った。 ・地域の企業の方々から模擬面接指導や進路行事等で協力を得られた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・面接練習や小論文練習等を早くにスタートさせ、進路意識を高める。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健安全 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 保健関係機関や家庭との連携を図り、生徒の健康の保持・増進に努める。  
 (2) 規律ある生活習慣の確立と自己管理応力の育成を目指す。  
 (3) 心身の健康教育と教育相談の充実に努める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 健康診断の結果を速やかに通知し、検査・治療が必要な生徒には多方面から継続的に指導を行う。  
 (2) 保健だよりや保健委員会活動、保健講話等を通じて、命の大切さや健康管理の大切さに気づかせ、実践できるようにする。  
 (3) Google formsを用いた「六高 こころの相談窓口」での面談や「ここ×からチェック」を2か月に1回程度実施して、生徒の自己理解を促すとともに、教育相談やカウンセリングに繋げ、心身の健康問題の早期発見・早期対応に努める。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 各健康診断後、受診結果を速やかに通知し、未受診者には長期休業前に再度通知をしたところ、視力検査の受診率が35.6%と、前年度より30%向上した。	A
(2) 医師とがん経験者を講師に招き「がん教室」を実施できた。自他の健康と命の大切さを学ぶ有意義な機会になったと思われる。クラスマッチや運動会の際、保健安全委員会で怪我予防・熱中症予防の呼びかけや感染対策として手指消毒の励行、共用の物品の消毒などを実施した。全校生徒の協力もあり、大きな怪我や感染拡大なく大会を終えることができた。	A
(3) 学年部の協力を得て、「ここ×からチェック」を2か月に1回程度実施できた。生徒の様子に異変を感じた際に「ここ×からチェック」を実施するなど、効果的に活用していた学年もあった。アンケート項目の検討や、相談先の組織の選択肢を増やすこと等が今後の課題である。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

「SOSの出し方講座」など心の健康維持について考える講話や心理アンケートの導入を検討し、3年間で系統的な健康教育の実施を目指したい。

## 5 その他、要望等

授業中の可能な限りの常時換気の励行と、加湿空気清浄機の使用をお願いしたい。





令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 \_\_\_\_\_ 教育情報 部

## 1 本年度の重点目標

- (1)校務支援システムが円滑に活用できるよう、環境を整備する  
 (2)ICT環境を整備し、生徒・職員がスムーズに情報を取得できる環境を提供する  
 (3)学校行事や生徒の活動の様子を素早く地域に発信する

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1)研修を行い操作について理解を深める。マニュアルを作成し全職員で共有を図る  
 (2)ネットワークが安定するように設備の調整を行う  
 (3)各分掌や部活動、教科等に更新を依頼し、協力しながら情報を発信する

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1)今年度から日々入力へ変更した。校務支援の操作に関わる研修はできなかったが、部員を中心に各先生方に操作を伝達することができていた。成績処理などにまだまだ混乱もあった。	B
(2)ネットワーク環境が脆弱な場所（体育館）の改善をすることができたが、対応が遅くなってしまった。	B
(3)HPの更新を各分掌にお願いしたことでページの更新がスムーズにでき、地域に情報を発信することができた。「すぐーる」を活用したことで、連絡を素早く保護者に伝えることができた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1)校務支援システムの操作や設定についての共有をしっかりと図り、職員に対する伝達がスムーズにできるように手順を明確化する。  
 (2)令和9年度から始まるBYODについての方向性をある程度示す。  
 (3)各分掌でHPの更新担当者を決めてもらい、素早い情報発信や古いページの削除を引き続きお願いをする。「すぐーる」の権限をもう少し広げ、教員が使いやすいように整備する。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 1年部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な生活習慣を確立させ、ルールやマナーを守る態度を養う。  
 (2) 自己理解と他者理解を深め、人間関係を構築する能力を養う。  
 (3) 学習の意義を理解し、自発的に学習に取り組む態度を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 職員全員で協力しながら生徒への指導を多面的、重層的におこない、ルールや指導の意味を理解し行動できる生徒の育成を目指す。  
 (2) 総合的な探究の時間の活動等で、積極的に講義やワークショップなどの社会性を培う活動や、「人間関係」の探究をおこなうことで、自己理解と他者理解を促す。  
 (3) 「学びなおし」や進路ガイダンス等をとおして、学習に誠実に向かう姿勢を養う。  
 (4) 挨拶や言葉遣いの指導を徹底し、互いを理解・尊重し、人間性や関係性を育成しながら、基本的な生活習慣の確立を促す。  
 (5) 面談やカウンセリング、健康管理指導に加え、特別なニーズに十分に配慮しながら、生徒が安心安全に生活し授業に集中できる支援活動を充実させる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

取組と成果	評価
(1) 職員全員で協力し生徒を指導することができた。人間関係のトラブル予防のためのグループエンカウンター講座やいじめ講座を開催したり、トラブルの際には悪口講座やクラスでルール作りを行うことで、ルールや指導の意味を理解できるよう取り組んだ。	A
(2) 良好な人間関係構築のためのワークショップや、仕事とコミュニケーション講座、地域文化理解の活動をとおして、多面的に自己理解と他者理解が促されるよう取り組んだ。	B
(3) 学力向上の視点からの学び直し講座や、進路ガイダンス(2回)、漫才的要素を取り入れた進路講話を実施し、学ぶ意欲の向上に努め、真面目に学びに向かう姿勢の育成を図った。	B
(4) 各種人間関係講座をとおしてSNSの正しい使い方や基本的な生活習慣が確立するよう取り組んだ。慣れもあり、指導を受けた生徒が多かったことは課題である。	B
(5) 問題や不安を抱えた生徒には生徒指導部のみならず、生徒支援委員会、保健部と密に連携しながら対応、支援することができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・生徒の心に響く指導法が課題である。講座前に自分事と認識させる工夫も必要である。
- ・部活動と勉強の間の活動を充実させていく必要がある。
- ・退学者を減らしたい。

## 5 その他、要望等

- ・スタディサプリの取組みせ方は、マンネリ化しないように工夫する必要がある。
- ・タブレットのロッカーを全クラスに配置してほしい。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 2 年 部

## 1 本年度の重点目標

- (1) 進路実現に向けて、個々の進路希望と学力に応じた学習に自主的に取り組めるようにし、自らの進路への意識付けをさせる。
- (2) 整容や基本的な生活習慣を徹底させ、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。
- (3) よりよい人間関係を構築する力を高めるための工夫をする。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 進路希望を早い段階で明確にし、進路実現のために必要なことを自覚させる。学習に関してはICTを効果的に活用し、一人一人が主体的に学習に取り組ませ、学力の向上ならびに定着を図る。
- (2) 基本的な生活習慣を徹底させ、正しい言葉遣いや挨拶ができるように声かけをしながら、社会人としてのマナーや礼儀を身につけさせる。
- (3) SNSの正しい使い方を身につけさせるなど、互いを思いやり、理解・尊重し合える人間性や関係性を育てる。生徒の特性をしっかりと把握し必要に応じて面談やカウンセリング、健康管理指導等によって、心身両面で健康な生徒を育てる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

- A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。
- B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。
- C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
インターンシップの実習先は例年実施している企業だけでなく、生徒が希望する企業で実施ができた。2年生の段階から面接ノートを作成し、長所・短所など自分に関わることについて早めに取り組ませた。面接練習も開始し2年生の段階からできることを身につけさせ、自分に足りないことは何なのかを考えさせることができた。	B
時と場面に応じた言葉遣いや挨拶ができるようにはなっているが、社会に出てから通用するマナーや礼儀をもっと徹底させたい。時間に対するルーズさが目立つ場面があり、今後もしっかりと指導していきたい。	B
SNSの使い方について、徐々に正しく使えてきていると感じる。友人関係は大きなトラブルもなく、互いに尊重し合いながら生活ができた。言動が心配な生徒については、家庭と連携し、カウンセリングを促した。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・礼儀やマナーなどを徹底させ、社会人としてのコミュニケーション能力を育成する。
- ・生徒を常に観察して理解しながら、希望する進路の実現を目指す。

## 5 その他、要望等

面接対策にもなるので、朝学習で曜日を指定して読書をさせたい。

令和 6 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 3 年 部

## 1 本年度の重点目標

「自立した社会人」になれるように、主体的に取り組む態度を身につけさせる。  
 (1) 個々の進路実現に向けて、必要な学力と知識をしっかりと身につけさせる。  
 (2) 社会生活に向けた基本的マナーの習慣化と正しい生活のリズムを確立させる。  
 (3) 高校生活最後の各行事や活動に、主体的に取り組む態度を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

(1) 個々の進路実現に向けて、必要な学力と知識をしっかりと身につけさせる。  
 ①適切な進路情報を提供すると共に、その達成に向けて主体的な学習態度を身につけさせる。  
 ②「学び直し（スタディサプリ）」を活用し、基礎学力を再確認させ、授業参加へ意識を高め成績向上につなげる。  
 (2) 社会生活に向けた基本的マナーの習慣化と正しい生活のリズムを確立させる。  
 ①遅刻を全滅から、基本的な生活習慣を徹底させる。  
 ②言葉遣いや立ち振る舞いの指導を行い、社会人としての礼儀を身につけさせる。  
 ③面談やカウンセリング、健康管理指導等、適切な支援を行う。  
 (3) 高校生活最後の各行事や活動に、主体的に取り組む態度を養う。  
 ①学校行事や部活動の集大成を図り、全力で取り組ませる。  
 ②行事に向けた計画を立てさせ、何事にも主体的に積極的に取り組ませる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 進路については、早い段階から準備をして取り組んでいたが、生徒の意識向上が低く、なかなか次へステップできないことが多かった。しかし、個々の希望する進路を学年部全員で共有し、適切な進路指導に努めた。学び直しは、一般教養としての常識を身につけさせるために活用できた。	B
(2) 遅刻者ゼロを目指したが、後半にようやく達成できたように思える。社会人としての基本的なマナーを身につけさせるために学年で取り組んだが、数名の生徒の指導は完全ではなかった。	B
(3) クラスマッチを始めとして、笹竹祭や運動会など最高学年として主体的に取り組む、成功に結びつけることができたと思う	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

(1) 進路決定に向けて、生徒・保護者との連携を図るために、夏季休業中の三者面談は必須である。未決定者や進路先変更の生徒と保護者との面談は実践していきたい。  
 (2) 通常の授業を発展させた総合的な探究の時間の学習の充実を図る。

## 5 その他、要望等

文字を丁寧に書くことができない生徒も多く、「書き方」の練習が必要であると痛感した。

令和 6 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 国 語 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎学力の定着を図る。  
 (2) 文章を的確に理解し、自分の言葉で適切に表現できる能力を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- ・教科書や副教材等を活用し、基礎的な漢字の読み書きや慣用句の使い方など基礎的な国語の知識の定着を図る。
- ・「電子黒板」や「タブレット端末」等、ICT機器を効果的に活用する。
- ・作文や小論文を書く機会を設定し、基本的な知識の習得や書く能力を高めさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 漢字の学習において、書き取りの練習だけでなく、意味や漢字の成り立ちにも触れながら学習を進めて行くことができた。また、副教材を活用し、慣用句、ことわざなどの意味や使い方などの学習を重点的に行うことができた。	B
(2) 教科書の題材に取り上げられている動植物や建造物などの写真や動画、歴史的背景をタブレット端末等で確認することにより、深い文章の読み取りを行うことができた。また、作品の感想文を書く際に、関連する文章やテーマを取り上げ、生徒自身もそれに対する意見文を書くことにより表現する機会を多くもつことができた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 学習の意義についても理解させながら基礎学力を定着させるとともに、漢字や語彙力、読解力を身に付けることに粘り強く取り組ませる。  
 (2) 自分の意見や考えを表現する機会を増やし、各々の考えを共有することでお互いを高め合う活動を取り入れる。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 地歴公民科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 資料を活用し、課題を解決できる力を身に付けさせる。  
 (2) 授業を通して、社会人としての基礎学力・教養を身に付けさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 地図や統計、画像などの諸資料などから読み取ることができ、自分の言葉で表現ができるようにする。  
 (2) 授業で利用するプリントや課題をしっかりとめさせ、基本的な事柄や知識を身につけさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習を実施し、インターネットや諸資料など、さまざまな情報の中から選択し、考えをまとめさせる学習を行うことができた。</li> <li>調べ学習のまとめを発表させる機会が少なかった。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>小テストや授業プリントを通して反復させながら学習し、基礎・基本が定着した。</li> <li>授業の内容や板書をノートにまとめさせ、見て覚えるから書いて覚える方法への切り替え指導が定着してきた。</li> </ul>	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・調べ学習を年間指導計画に盛り込み、自分の意見や考え方などを表現する機会を効果的に設定する。

## 5 その他、要望等

特になし

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 数 学 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) ICTを効果的に活用し、基礎基本の定着を図る。また、幅広い進路への対応のため発展的、応用的な内容にも取り組ませ、学力向上を目指す。
- (2) 生徒一人一人に寄り添った指導をするため、個々に対応した指導内容や指導方法を考え、授業改善ならびに評価についても改善に務める。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) ICTを活用し、小学校段階からの学び直しを充実させる。また、授業を展開する場面でも必要に応じて学び直しの時間を設ける。特に、進学を希望する生徒に対しては教科書の内容以上の応用問題についても、生徒が主体的に取り組めるようにする。
- (2) TTの授業を有効に活用し、困っている生徒がいればできるだけ速く対応しながら授業を進める。評価について、ICTの活用状況も評価の対象とし、主体的に学習に取り組めるようにする。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 朝学習でスタサプを活用し、小学校段階から応用まで生徒に応じて対応することができた。授業においては、電子黒板と黒板を有効に活用し、ICTの部分とそうでない部分の使い分けを考えながら展開することができた。	B
(2) TTの在り方については、在籍数の減少により検討が必要である。ICTの活用状況を評価することはできなかったが、自動採点システムを活用した採点を導入することで、生徒の理解度と定着度の向上を目指す問題作成を検討できた。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・数学科として「自動採点システム」を導入し、基礎的な問題をこなすことと、応用的な問題に取り組ませることの両方を効率よく指導する。
- ・スタサプについて全校に同じ課題を与えたが、個々の不得意分野の克服に向けた活用の仕方を考える。

## 5 その他、要望等

特になし



令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 理 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な学力を定着させる。  
 (2) 自然科学に興味をもたせるために生活に関連づけた内容にするなどの工夫をする。  
 (3) 生徒の防災・減災意識を高揚させる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 基礎的・基本的な内容に関しては、身近な例について調べさせたり、考えさせたりすることで定着率を高める。  
 (2) 生徒が興味を抱くように授業の軸となる発問を研究する。生徒が自ら考え、表現し、自分の考えと仲間の考えを共有できる授業を工夫する。  
 (3) 過去や現在の災害について学び、日常または被災時にとるべき行動を考えさせる。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
学習の内容が生活に生かされている場面を生徒に考えさせたり、調べさせることができた。確認テストを平常時や考査前に実施し、基本的知識の定着を図った。	B
本時の目標の達成のために、生徒が考え、それを仲間に広め、共有する場面の設定を心掛けた。身近な生活の中から課題を見つけ、その課題を解決するために、調べたり、話し合いをすることで、考えを深め表現する力を伸ばすことができた。また、「ヒントカード」を用いて前時の内容を確認できるように工夫することで、自ら考え、仲間に話しかける場面が多くなるよう促した。	B
自然災害発生のメカニズムを学び、被災したときにどのように行動すべきかを考えさせることができた。特に、能登半島沖地震や、身近なところでの熊の出没への対応やその原因についても考えさせることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

理科を不得意とする生徒に対して、学ぶ意欲を維持させられるような発問や取り組みを検討していきたい。

## 5 その他、要望等

不要な薬品の処分、顕微鏡の修理を行っていただきたい。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 保健体育 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的事項の徹底を図り、健康で安全な生活に留意させる。  
 (2) 生涯にわたって運動に親しむ姿勢を定着させ、健康で安全な生活を送ることができる技能と知識を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 集団行動などを通して、周囲を考慮しながら行動し、しっかりとした態度を身に付ける。  
 (2) 基礎的、基本的な運動能力の更なる向上を目指し、反復練習に励む。  
 (3) ゲームなどでの確かなアドバイスや指示ができるようにルールなども把握する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
全クラスに集団行動を実施したが、時間が足りず、生徒指揮官での発表まで進むことができなかった。終始の挨拶はしっかりできていた。 挨拶後の準備運動はしっかり徹底できて、怪我防止に努めることが出来た。	B
生徒個々の運動能力には大きな差があるが、能力別にグループ分けをしたり、上手な生徒からは模範演技をしてもらうなど工夫することができた。動画撮影やClassroomを使っ、課題提出をさせるなどICTも活用できた。しかし、年間指導計画通りに進めず、今後は学校行事を元に、じっくり計画を立てていきたい。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

年間指導計画の練り直しと怪我防止の徹底を図りたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 芸術科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な音楽の知識・技能の定着を図る。  
 (2) 主体的に学習に取り組もうとする態度を育成し、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 歌唱・器楽・鑑賞の諸活動を通じて様々な種類の楽譜を読み取ることで、感受した音楽の諸要素を知識に結びつけ、演奏実践を通じて読譜力を向上させる。  
 (2) 各自の興味関心や習熟度に応じて課題を選択させるなど、ICTを活用した学習を効果的に取り入れ、効果的な教材の与え方を工夫するとともに、芸術・文化が日常生活に繋がっていることを理解できるように他分野と関連付けた授業の展開を工夫する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
・歌唱：校歌・県民歌の歌詞内容理解と自分の声が唯一楽器であることの体得を通してから、外国語曲の歌唱にも挑戦した。器楽：生活の身近な素材をリズム化し歌詞を付けた。次にボディ&ヴォイスパーカッション、楽器演習へと発展させて学習できた。歌唱、楽器表現を躊躇しがちな生徒にについては、抽出練習可能箇所を提示して近くで見守りながら楽しめるポイントを共感指導した。	A
・クロームブックの活用を取り入れてより分かりやすい音源を検索した。生徒各自の選曲、演習活動にも使用した。音楽Ⅲと保育基礎との連携「楽器演奏を伴う絵本読み聞かせ」では、進路選択の違いがある中でも全員が大変興味をもち、喜んで創造学習できた。「日本音楽」に関する指導は資料研究が遅くなり、十分に指導できなかったことは次年度への課題である。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

日常生活で触れることのできる素材を活用し、音楽を愛好する心を育てる指導をする。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 英語科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 新学習指導要領やCAN-DOリストを踏まえ、5領域（技能）の基礎の定着に向けた主体的、かつ対話的な学習の実践をさらに図る。
- (2) 外国語やその文化に対する興味や関心を伸ばすために、ALTのさらなる積極活用を図る。また、積極的に英語でコミュニケーションをする態度を育てる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) シラバスやCAN-DOリストを活用しながら、生徒と職員による協働学習と生徒間同士の主体的、対話的学習を視野に入れて普段の授業を構成し、実践していく。
- (2) 英語を使わせるという意識に立ち、教材や諸活動の精選を図りながら授業を実践していく。また、ALTとのコミュニケーションをよく図り、よりよい授業実践により外国語や異文化への興味関心の醸成に努める。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 5領域（技能）の伸長を考え、対話的、実践的な学習活動を概ね行うことができた。また、必要に応じてICTを利用しながら、主体的に学びの実践につなげることができた。但し、CAN-DOリストをこまめに活用しながら、学習活動を計画的に進めていくという点では課題が残る。	B
(2) T. T. を通して、ALTを積極的に活用し、異文化だけではなく、片言でも英語を話してみよう、話してみたいという気持ちの醸成につなげることができた。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・各種英語検定の実施形態とその対策のあり方の検討

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 家庭科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 自立した生活者として必要な基礎的、基本的な知識・技術の定着を図る。
- (2) 協力して主体的に家庭や地域の生活を創造しようとする力を育む。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 自立した生活者として必要な知識・技術を定着させるために、生徒の実態を踏まえて学習内容を厳選し、計画的に学習を積み上げられるように工夫する。また、ICTを効果的に取り入れ、他者の意見や考えに触れながら、個人の考えを深められるような機会を設定する。
- (2) 家庭や地域の身近な生活に注目して、抱いた疑問や課題を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、共に学び合う機会や、家庭や地域で実践する機会を設定する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 自立した生活者として必要な知識や技能とは何かを生徒と共に考え、確認しながら学習活動を行うことができた。しかし、考えていたよりも基礎教養を習得するために時間がかかり、計画的に学習を積み上げることは十分ではなかった。	B
(2) 身近な生活に注目して、抱いた疑問を解決したり、生活文化を継承したりしていくために必要なことは何かを考え、一人一人が問題解決的な学習に取り組むことができた。保育実習や食の交流事業などの体験的な学習を通して、地域を学び、自分の学びを仲間と共有したり、協力して学び合うことで、主体的に学び、家庭や地域で実践しようとする気持ちが高まってきている。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- (1) 生徒の実態を踏まえて、自立した生活者に必要な基礎教養のために学習内容の厳選と年間計画を工夫する。
- (2) 体験的な学習や問題解決的な学習は学ぶ意欲を高め、生徒の実践的な力を高めているので継続して取り入れていきたい。家庭や地域での実践化に結びつけられるように授業内容を更に工夫したい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 情報 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 情報と情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を養う。
- (2) 情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、主体的に参画するための資質・能力を身に付けさせる。
- (3) タイピング能力の向上、プログラミングに関する知識の定着を図り、情報社会に参画する能力を身につけさせる。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 情報の収集と精選、活用等について、実習を通して身に付けさせる。
- (2) 情報社会で適正に活動するための基となる考え方や態度である「情報モラル」の様々な側面と情報化の影の部分に関する教材について、お互いの考えを共有できる場面を計画的に設定する。
- (3) タイピングソフトの活用、MicroBitコンテストに向けたアイデアを練るなどの学習で、実践力を養う機会を増やす。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
情報の収集と精選、活用に関して、実習を通して取組んだが、身に付けるまでではできなかった。	B
情報モラルに関する活動は多くの単元で取り入れながら、その都度話合いや考えを共有する場面を設定してきたが、SNSなどの使い方などを見ると、話合いの際の考えと実生活での行動が一致できていない生徒も見受けられる。	B
昨年度に引き続き、タイピングスキルは大きく向上した。MicroBitコンテストに関してもアイデアを練るだけでなく、応募まで行うことができ、実践力を養う活動が昨年度以上に充実した。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

情報については、1年生のみならず、2年間に渡って、じっくりと繰り返しながら継続して、プログラミングの実践力の育成、情報モラルやセキュリティについて行う必要があるように思う。プログラミングコンテストへの参加も継続していこうと考えている。

プログラミングの学習したことを地域の小学生親子に対して、還元することは地域貢献への意識の醸成と自信をもつことにつながるため、今後も継続していきたい。

## 5 その他、要望等

特になし。

令和6年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 商業科

## 1 本年度の重点目標

- (1) ビジネスの諸活動における知識と技術の習得を通して、地域社会で実践できる能力を養う。  
 (2) 職業人としての心構えや主体的に課題解決に取り組む態度を養う。

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 机間指導や個に応じた指導の充実させ、基礎的・基本的な知識と技術の定着を図る。  
 (2) 実際のケースや身近な事例を活用し、実務に即した授業を展開する。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 3年生の課題研究では美郷町の紹介をスライドを活用し作成した。発表を行い互いに評価し合い主体的な活動を行うことができた。2年生は資格取得にも力を入れることができたが、基礎的な力をしっかり定着させるところまでは至らなかった。	B
(2) 生徒の実態に合わせて学習内容を精選・工夫した。ケーススタディに取り組み、色々な意見を聞くことができた。GoogleMeetを活用し、板書の工夫を行った。	B

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・ 学力および学習意欲の低い生徒への対応
- ・ 新学習指導要領、新教育課程への対応
- ・ 課題研究の充実

## 5 その他、要望等

特になし。

令和 6 年度

## 分掌・学年・教科の成果と課題

分掌・学年・教科名 福祉 科

## 1 本年度の重点目標

- (1) 福祉の基礎学力の定着と、実践を意識した学びの充実  
 (2) 福祉社会で求められる豊かな人間性と職業人として必要な適応能力や実践力の育成  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現に対応できる能力の育成

## 2 目標達成のための具体的方策

- (1) 福祉の基礎学力の定着と、実践を意識した学びの充実  
 ①福祉教科と日常生活を結びつけ、日々の学習を行う。  
 ②授業ノート・課題プリント・実習記録等の提出を徹底させ、「書く力」と「伝える力」、「自ら学ぶ力」を育成する。  
 (2) 福祉社会で求められる豊かな人間性と職業人として必要な適応能力や実践力の育成  
 ①ボランティアや施設実習等の経験を通し、職業人に求められる倫理観を身につけさせる。  
 ②社会に貢献する意識、優しさや思いやりの心を育ませる。  
 (3) 介護福祉士の受験資格取得と進路実現に対応できる能力の育成  
 ①ボランティアや施設実習を通して、福祉の現場との連携を強化し就職活動に結びつける。  
 ②2、3年生を対象とした模擬試験の実施、添削指導を強化し、さらなる知識・技術の定着を図る。

## 3 今年度の取組における成果と課題

「秋田型学校評価」の評価基準（秋田県教育委員会）

A:具体的な活動がなされ目標を達成できた。

B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない。

C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない。

取組と成果	評価
(1) 丁寧に書くことや、学び・気づきを文章化することを苦手とする生徒に対しては「実習記録」の下書き指導をし、その上で施設に提出することにより、指導の充実を図ることができた。しかし、定着には至らない生徒もいるため、基礎学力や理解力に応じた指導を今後も継続する必要がある。	B
(2) 高齢者施設や地域のボランティア活動に参加し、高齢者や児童など地域に暮らすさまざまな人とふれあうことができた。	A
(3) 介護福祉士の受験資格取得に向けて、補習を継続して実施し必要な知識・技術を身につけさせることができた。施設実習を経験したことで、地域の福祉施設への就職を希望する生徒が多く、スムーズな就職活動に繋がった。	A

## 4 次年度の取組 ※課題を踏まえた取組、新たな取組

- ・生徒の基礎学力や理解力に応じた指導の充実

## 5 その他、要望等

特になし